



あの頃 幼な過ぎた僕等は . . .

この同じ大空の下、引き寄せられた
たった一つの奇跡でさえ、

不器用にしか育めなかった
嘆きのromanesque。

海底に沈むclavisはクローゼットの中、
眠るsilent-memories。

あの頃の僕等では、愛と呼ぶには不器用過ぎて . . .

まるで力任せで噛み合えない歯車の様に、
繰り返される過ちは、

bitterな傷跡だけを残酷に残して . . .

それは、嵐に晒された暴力的な潮騒が、
激しく胸に打ち寄せる涙のetude。

幻想浮かぶ帆船は、
無辺世界を彷徨う切迫のsolitude . . .

立ち止まるaporiaの対峙は、
逡巡のReverse-destiny。

あの頃の僕等は不可抗力で . . .

muteな時間の中、
二人ただ呆然と立ち尽くしていたね。

立ち向かうにはIntention of time is fast and . . .
”時の意向が早過ぎて”